

第77回国民体育大会冬季大会  
スケート競技会・アイスホッケー競技会

我 ら か く 戦 う

＜スケート競技会・アイスホッケー競技

期 日 令和4年1月24日(月)～30日(日)

会 場 栃木県

公益財団法人 北海道スポーツ協会

競技名	種別	評価	予想順位・得点	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
スピードスケート	成年男子	5	総合1位・得点40点	栃木県、長野県との争いとなる予想	山田 和哉（高崎健康福祉大学2年）インカレ1500m優勝 藤野 裕人（ジョイフィット） 中村 奨太（GRASS）インカレ5000m優勝	
	成年女子	4	総合1位・得点36点	今年度も有望な北海道出身選手が他県で選出され、苦しい状況であるが、取りこぼしを最小限に抑え、一人でも多く決勝に進めるよう最善を尽くしたい。	佐々木 成果（山梨学院大学2年） 小野寺 留衣（高崎健康福祉大学2年） 斎藤 瑠奈（高崎健康福祉大学2年） 久保 純奈（日本体育大学3年）	今年度各種目のタイムランキング上位者を起用した。2000mリレー二連覇を目指す。
	少年男子	5	総合1位・得点40点	短中距離は優位にあるが、長距離は長野県、群馬県などの強豪選手に十分注意したい。世界ジュニア選手権に高校生トップの二人が選出されたため、厳しい状況である。	阿部 心哉（帯広三条3年） 巻淵 遥人（帯広農業2年） 軍司 一牙（白樺学園2年） 武田 京乃（池田2年） 鮫川 友希（駒澤大学附属苫小牧3年）	軍司 愛梨（少年女子：池田3年） 軍司 一牙（白樺学園2年）・・・姉弟  小野寺 留衣（成年女子：高崎健康福祉大学2年） 小野寺 日菜（帯広南商業3年）・・・姉妹
	少年女子	4	総合1位・得点54点	短距離から長距離まで2名ずつ揃っている北海道と長野県の2強対決が予想される。	小野寺 日菜（帯広南商業3年） 久保 杏奈（白樺学園2年） 森野 ころこ（駒澤大学附属苫小牧3年）	小野寺 日菜（帯広南商業3年）2021インターハイ1000m6位 森野 ころこ（駒澤大学附属苫小牧3年）2021インターハイ3000m3位 前田 梓（白樺学園2年）2021インターハイ3000m5位  8名中5名が連続出場者であり、前大会の経験を活かした戦いが予想される。
ショートトラック	成年男子	2	団体5位・得点4点	北海道は全国的にみてもショートトラックの選手が少ないので状況は厳しいが、成年女子は過去3年3000mリレーで得点し、昨年は3位になっているので今年も継続して得点を取りたい。しかしながら昨年のリレーメンバー4名中3名が入れ替わっているため、失格などにならないように確実に完走したい。		
	成年女子	2				
	少年男子	2		北海道は全国的にみてもショートトラックの選手が少ない状況にあるが、前年度は男女ともに予選通過の目標を果たしている。今年度は更に上のステージである準々決勝通過を期待したい。		
	少年女子	2				
フィギュアスケート	成年男子	3	団体8位	全日本選手権出場の長谷川一輝（東京理科大学2年）の活躍に期待する。昨年逃した8位入賞を勝ち取れるよう二人に期待している。	長谷川 一輝（東京理科大学2年） 2021東日本選手権大会3位、2021全日本選手権大会22位	
	成年女子	3		目標は入賞とし、ミスの無い演技でショートプログラムを上位で通過し、フリーでも順位をキープしたい。しかしながら、コロナの影響で練習環境の整わなかった時期もあるので練習不足が懸念される。		海津 あすか（東洋大学4年）…インカレ（7・8級）20位 三善 友奈（立命館大学2年）…インカレ（7・8級）29位
	少年男子	—	—	—	—	
	少年女子	3	団体8位	インターハイ共に出場、いとこの二人のチームワークに期待する。ミスなく演技し8位入賞を目指していく。		
アイスホッケー	成年男子	5	団体1位・得点40点	今年のチーム構成は、22歳から30歳と平均年齢が中堅のチーム構成になっています。北海道の戦略としては、前年度同様、守りを重点にゲームプランを考え、運動量の豊富なFW陣で守りから攻撃への速い展開をして、得点を取り、勝ちに繋げて行きます。選手全員、経験豊富であり、このチームで何を行うべきか理解している事が大きな強みになっている。全体的にFW/DF全ての選手が攻守の運動量重視をした事で、スピード感のあるチームになった。	佐藤 光（タダノ） 村上 亮（日本製鉄室蘭） 阿部 魁（日本製鉄室蘭） 青山 大基（明治大学） 今野 友尋（DYNAX） 坂本 颯（DYNAX）  アジアリーグで活躍した選手及び現在J-northでも活躍中で、個人スキルが攻守ともに優れた選手及び大学生のDFで、中でもトップクラスのスキルを持っている選手。	村上 亮（日本製鉄室蘭）…7年連続出場
	少年男子	5	団体1位・得点40点	運動量のアドバンテージを活かして、アグレッシブな戦術を組む。油断することなく、選手には自分のベストを尽くしてもらいたい。そうすれば、必ず優勝できると信じている。	村瀬 鼓太郎（武修館3年） 森田 琉稀亜（駒澤大学附属苫小牧3年） 葛西 純昌（武修館3年） 大和 純也（武修館3年）  4名はU-20世界選手権に出場し、3位の成績をおさめたメンバーで、高校生では日本を代表する選手である。	第16回全国高等学校選抜アイスホッケー大会の上位校及び第77回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会北海道予選会の上位校から選抜された選手。インターハイについては国体直前に実施予定。  北海道少年は18連覇中なので、是非連覇記録を伸ばしたい。